5月～6月のりた

時 開催時間　所 開催場所
¥ 参加費用　定 定員（選定方法）
対 参加対象　申 参加方法
持 持ち物　● 該当テーマ

なごみん　66-8251

マッチング

5/24　花咲ボランティア

なごみんでは、玄関前の花壇のお花を年に2回植え替えています。
毎年多くのボランティアの方にご参加いただき、交流を続けています。

時 9:30～12:00　¥ 無 料
所 なごみん
対 ボランティアやガーデニング興味がある方
申 事前になごみんへお申し込みください。

よりなん　59-3600

マッチング

5/13　活動を広げるための広報講座

活動を活性化させるためには、いろいろな広報手段があります。その中の1つと して「チラシ」を取り上げ、作成のコツをご紹介します。

時 14:00～15:30
所 よりなん
¥ 無 料
申 事前によりなんへお申し込みください。

よりなん　59-3600

防 災

6/11　防災講習会

防災・災害に関しての意識を高める講習会です。地区防災の意義を高めるため、様々な視点で防災について学び、地域一体での防災・災害対策を目指します。

時 9:45～12:00　¥ 無 料　定 80名
所 よりなん 第1・第3・第6活動室
申 事前によりなんへお申し込みください。

やはぎかん　33-3665

景 観

5/14　矢作の魅力発見！まち歩きツアー

矢作のまちに古くから伝わる、お釈迦様の誕生を祝う伝統行事「花のとう」の開催に合わせ、矢作のまちを歩きます。

時 9:00～12:00　¥ 無 料
所 やはぎかん～誓願寺～矢作神社
定 20名（先着順）
申 事前にやはぎかんへお申し込みください。

むらさきかん　66-3066

景 観

5/13　第14回 むらさき麦まつり

毎年、むらさき麦の穂がなびく頃に開催される藤川宿の魅力発信イベント。藤川まちづくり協議会との共催事業です。

時 10:00～15:00
所 藤川宿一帯(本陣跡広場・第2工房 道の駅藤川宿・むらさきかん)
¥ 無 料(一部有料)
申 直接各会場にお越しください。
※駐車場が少ないため、乗り合わせや、公共交通機関でお越しください。

むらさきかん　66-3066

マッチング

6/25　第2回東部の活躍人!交流会

東部地域(主に額田地区)で活躍する市民活動団体・地域団体の代表者らが集まり、互いの情報交換と親睦を図る交流会を開催します。

時 10:00～13:00　¥ 無 料
所 むらさきかん　第4活動室
対 東部地域で活動する市民団体・地域団体の方。会の趣旨を理解し、賛同・応援いただける方。
申 事前にむらさきかんへ申し込みください。

悠紀の里　57-5050

景 観

6/4　お田植え みんなでアート

悠紀の里の壁面ガラスを、ガラス絵とローズウィンドウとのコラボで一つの大きな作品を作り上げます。悠紀の里に新しい世界が広がります。

時 11:00～13:00　¥ 無 料
所 悠紀の里交流スペース
定 30名（先着順）
対 幼児～大人（少学2年以下は要保護者同伴）
申 事前に悠紀の里へお申し込みください。

NEWS

身近な課題を自分たちで解決しよう

「NPO等交流会」

岡崎市（あるいは近郊）で活動しているNPOや市民活動団体、または個人の方、これから新しく市民活動や社会的事業を始めたいという方の情報交換および交流の場です。
毎月1回定期開催をしています。

日　時：平成29年5月16日（火）　13:10～15:00
場　所：図書館交流プラザ・りぶら　会議室301
申　込：事前にお電話またはメールにてお申込みください。
岡崎まち育てセンター・りた
TEL:25-6345　Mail:info@okazaki-lita.com

まちのミカタ
Litaracy
2017.05 vol.86

■発行・編集
特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた
〒444-0072　愛知県岡崎市六供町字杉本78-1
TEL（0564）23-2888／FAX（0564）23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

■配 布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送　等　※会員登録をご希望の方は先までご連絡ください。

■配布協力
岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／angelshare／コミュニティ・ユース・バンクmomo／cafeくらがり／CAFE＆TABIBOOKS隠れ家／長誉館／松應寺

まちのミカタ
Litaracy —りたらしい—
86
2017年5月

特集　住民同士で考え、実践につなぐ。地区防災計画策定支援業務

「地区防災計画」とは、住民や事業者による自発的な防災活動等について策定する計画で、内閣府が主導して全国で取り組まれています。東日本大震災では、地震や津波によって市町村の行政機能が麻痺し、住民による"自助"や地域コミュニティにおける"共助"が重要な役割を果たしたことから、自助力・共助力の重要性が再認識されました。そういった経験から、行政が市内全域に関する防災の対応を考える従来の「地域防災計画」に加えて、地区それぞれで備えることをまとめる「地区防災計画」の制度が創設されました。

簡単に言い表すと、物理的に動けなくなってしまう行政の助けを待っていては助からない命を守るため、あらかじめ地域で助け合いの計画を立てておくことで、住民の命を助けようという取り組みです。

りたは防災危機管理課とともに、28年度までの2ヵ年で8地区をモデル地区として地区防災計画の策定に尽力してきました。今号では、それらの取り組みについてご紹介します。

特集 住民同士で考え、実践につなぐ。地区防災計画策定支援業務

岡崎市における取り組み

岡崎市は27年度より地区防災計画策定支援業務を開始しました。これは住民の防災知識を深めるだけでなく、ワークショップ形式（住民参加型）で実施することで、住民同士が話し合ってその町に合った防災計画をまとめるという事業です。（りたは意見交換の場をコーディネートしました）

27年度は矢作北学区、松本町、中之郷町、桜井寺町の4地区。28年度は若松東、藤川西部、戸崎六区、西本郷町の4地区。計8地区で各地区3〜4回のワークショップを経て、それぞれの地区の地区防災計画を策定しました（りたが携わった地区は7地区）。また、これらの地区をモデルにして、今後他の地区で地区防災計画を策定する際に、自力で検討を進められるように計画策定マニュアルも作成しました。

計画策定までの流れ（モデルケース）

地区防災計画は、1回2時間程度、最低4回のワークショップ形式の話し合いで策定します。

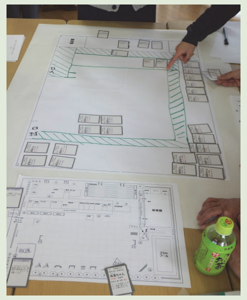
第1回目「住民の意識啓発」
防災について話し合う前段階で、基礎知識や計画策定の必要性を学びます。

第2回目「町の防災上の課題抽出」
町の特性や課題を抽出することで現状を把握し、第3回目から検討すべきことの優先順位を決めます。

第3回目(以降)「課題に対する対策検討」
テーマ討議で防災活動の担い手や復旧復興時の動き等、未検討項目がないように考えていきます。グループワーク後は全体に共有し、議論を深めます。

最終回「対策のまとめ」
基本方針や実際の行動につなげるための行動計画を立てます。

計画完成
ワークショップ終了後は、案としてまとまった段階のため、地区の役員会等で調整し、文章でまとめて完成です。



地区防災計画策定の重要な点は、他地区の完成品をトレースするのでなく、地区の特性や課題に応じてそこに住む住民が集まって住民同士で対策を考え、計画としてまとめるという点です。

モデル地区では、ワークショップを通して「町の課題が明確になり、今後何をすべきかが分かった」という感想が多く出たり、「防災訓練を見直す」、「数年で交代する総代に代わって長期の防災専任担当を置く」など、計画の実行に向けた動きもみられました。一連のワークショップを経て、"行政に任せっきりではなく住民同士で考え行動する"という意識が高まり、持続可能な社会（町運営）に一歩近づくことができたと言えるでしょう。

3月〜4月のりた

なごみん 4/16 なごみんフェスタ2017

マッチング

毎年恒例、なごみんフェスタを開催しました。フェスタにご協力・協賛いただいた地域の方々、たくさんの方々の力が合わさって最高のフェスタになりました。お天気にも恵まれ、老若男女みんながふれ合い笑顔の絶えない1日となりました。

やはぎかん 3/5 やはぎかん9周年春まつり

マッチング

やはぎかんは、平成29年2月に開館9周年を迎え、盛大に9周年春まつりを行いました。

当日のやはぎかんは、発表、体験・展示、販売等いろいろなブースがあり、どのブースも賑わっていました。

まち育て推進チーム 3/27 オカザキデザイングッドデザイン活用フォーラム2017

マッチング

2017年3月27日に図書館交流プラザ・りぶらホールにて、オカザキデザイングッドデザイン活用フォーラム「企業を成長させるデザインとは」を開催しました。「オカザキデザイングッド」は、地域の中小企業経営者や事業者に対し、デザイン活用の啓発や活用を図りながら、経営者とデザイナーを結び、経営課題の開発を目指すプロジェクトです。

今回のフォーラムでは、富山県高岡市の鋳物メーカー「能作」より代表取締役社長の能作克治氏、ディレクターを務める株式会社t.c.k.w代表取締役の立川裕大氏を招き、経営者とディレクターそれぞれの視点からデザイン活用成功の秘訣や、地域に根差した事業展開の在り方についてお話を伺いました。参加者からは「もっと深く考えないと本当に売れる商品は開発できないと感じた」（事業者）、「ディレクターの役割が明確になった」（デザイナー）などの声が寄せられ、デザインと経営の関係について考える機会となりました。

市民活動支援チーム 3/4 新世紀岡崎チャレンジ100収穫祭

マッチング

昨年の5月から今年の2月までの10か月間、岡崎市制100周年を祝う89の市民プロジェクトが市内各地で実施された「新世紀岡崎チャレンジ100」。「その成果を次の100年へつなげよう!!」をテーマに成果発表と交流の場を開催しました。

プロジェクトの実施団体に成果と次年度の目標を発表してもらい、その発表を聞いて「一緒に活動したい」・「協力したい」と思った参加者が直接団体とコミュニケーションが取れる企画です。参加した団体の間では、"来年にはコラボした企画をお互いの専門性・ネットワークを活かして行っていこう"・"今後どのように岡崎を盛り上げていこうか"などの意見交換が進み、今後につながる交流会でした。

2017年の岡崎市も昨年に劣らぬ盛り上がりが期待できそうです。

まち育て推進チーム 3/21 暮らしを変える、まちが変わるまちなか未来戦略フォーラム

景観

2017年3月21日に図書館交流プラザ・りぶらホールにて、乙川リバーフロント地区まちづくりまちなか未来戦略フォーラム「私たちのQURUWA戦略」を開催しました。

岡崎市中心市街地活性化の施策として、2015年から5年間で実施される予定の「乙川リバーフロント地区整備計画」は最初の2年間が終了。

本フォーラムでは事業開始からこれまでの2年間を振り返り、行政と民間が一体となって行う公民連携でつくるまちづくり「おとがわプロジェクト」について、内田市長のほか、岡崎のまちづくりに関わる3人の専門家が意見交換を行いました。

昨年度は乙川で河川空間活用の利用実験「おとがワ！ンダーランド」や、連尺通に総菜を販売する「wagamamahouse」が開店するなど、まちに変化の兆しが見えた年でした（詳細は本紙82号・84号特集参照）内田市長らは、実験的な取り組みを行う中で民間側の担い手が生まれたことや、その動きを支援・誘発するために公共投資を行う行政という（岡崎らしい）公民連携の在り方が徐々に形成されてきていることを評価。

今後3年間は、それらの動きがさらに活発化し、大小に波及することが期待されるシンポジウムとなりました。